

8つのアート1つのハート

日本大学藝術学部

Photography/Cinema/FineArts/Music/LiteraryArts/Theatre/Broadcasting/Design

◆ 大学 院 芸 術 学 研 究 科 ◆

◇博士前期課程／文芸学専攻／映像芸術専攻／造形芸術専攻／音楽芸術専攻／舞台芸術専攻

◇博士後期課程／芸術専攻



写真



映画



美術



音楽



文芸



演劇



放送



デザイン



熱気・やる気・元気



江古田校舎

海の日にはオープンキャンパスへ行こう!

OPEN CAMPUS

7.16

予約不要・入退場自由

学部全体説明会(入試説明含む)/模擬授業/
ワークショップ/個別進学相談コーナー 他



江古田校舎

進学フェア

6.3

予約不要・入退場自由

【日】10:00～16:00

学部全体説明会(入試説明含む)/学科説明会/学科公開授業 他



江古田校舎

入試相談会

11.3 .4

【土/祝】

10:00～16:00 予約不要・入退場自由

個別進学相談コーナー/VTR上映コーナー 他

美術学科・デザイン学科では作品を持参した方にアドバイスいたします
11月2～4日に芸術学部祭を実施していますので、学生主催のイベン
トやキャンパスの雰囲気もご覧いただけます

N O U
Nihon University College of Art
A r t

<http://www.art.nihon-u.ac.jp/>

■ 江古田校舎 練馬区旭丘2-42-1 TEL.03-5995-8282 ■ 所沢校舎 所沢市中富南4-21 TEL.04-2993-2212

日本大学芸術学部



校友会報

平成24年5月発行
2012年春季号

88

C O N T E N T S

平成 24 年度総会のご案内	2	第 6 回長野江古田会総会	11
第 6 回日藝賞決定	3	台湾江古田会総会開催及び懇親会報告	12
皆さん今日は！	5	芸術祭	12
新年顔合せ幹事会	9	学部ニュース	13
新潟江古田会総会	10	学科ニュース	14
宮城江古田会総会	10	編集後記	19
岩手江古田会総会	11		

平成24年度 総会のご案内

INFORMATION

2012年
6月30日[土]
PM 5:00 スタート

議 題

1 会務報告 2 会計報告 3 予算審議 4 推薦校友 5 その他

総会終了後、ただちに懇親会に移ります

会費

喜寿を越えられた卒業生……ご招待
平成16年度以降の卒業生……3000円
それ以外の卒業生……5000円

場所:日本大学芸術学部 内

《03-3554-5363》※当日、正門にてご案内致します

※同封しました総会の出欠のはがきをお送りください。

第6回日藝賞決定

毎年活躍した校友二名を表彰し賞金とトロフィーを授与する「日藝賞」の第6回受賞者が決定し、4月8日の入学歓迎式において授賞式が行われました。



船越 英一郎
【Eiichirō Funakoshi】

本名 船越栄一郎
生年月日 1960年（昭和35年）7月21日
出身地 神奈川県
学歴 日本大学芸術学部映画学科（1983年3月卒業）
血液型 B型
97年2月に「船越英一郎」に改名



松井 龍哉
【Tatsuya Matsui】

昭和44年1月2日東京都生まれ。
平成3年3月25日 美術学科(VCデザインコース)卒業
丹下健三・都市・建築・設計研究所を経て渡仏。
科学技術振興事業団北野共生システムプロジェクトにてヒューマノイドロボット「SIG」「PINO」などのデザインに携わる
2001年フラワー・ロボティクス社を設立。ヒューマノイドロボット「Posy」「P-noir」や「Platina」等開発
また09年よりマネキン型ロボット「Palette」「U.T.Palette」を自社開発、自社販売開始。
2006年より財団法人日本産業デザイン振興会主催グッドデザインGマーク審査員

【最新情報】

＜連続ドラマ＞

CX 1月クール「早海さんと呼ばれる日」
放送終了

＜2時間ドラマ＞

CX 金曜プレステージ「埴村周五郎9」

＜CM＞

「八幡物産」出演中

【主な出演作品】

＜テレビ＞

TBS 「父の恋人」(日曜劇場) 1982年デビュー
CX 「うちの嫁さんどっちもいてバイ」
NTV 「気分は、名探偵」
NTV 「刑事物語 '85」
NHK 朝の連続テレビ小説「ノンちゃんの夢」
NTV 「八百八町夢日記」
NTV 「夢の音楽舎」司会
TX 12時間超ワイドドラマ「次郎長三国志」
NTV 「小京都ミステリー」シリーズ(火曜サスペンス劇場)
ANB 「船長シリーズ」(土曜ワイド劇場)
ANB 「京都地検の女」
TBS 「マンハッタンラブストーリー」
NTV 「黒の回廊」(松本清張スペシャル)
NTV 「愛情イッポン」
NTV 「たったひとつのたからもの」
EX 「アタックNo.1」
NHK 「第37回 思い出のメロディー」 2005.8 ステージショー初司会
TBS 「赤い運命」
TBS 「渡る世間は鬼ばかり」
NTV 「手の上のシャボン玉」
EX 「その男、副署長 京都河原町署事件ファイル」
EX 「体育の時間」番組MC
EX 「その男、副署長2 京都河原町署事件ファイル」
CX アニメ「ジャングル大帝」ト役
TBS 日曜劇場「官僚たちの夏」
EX 「その男、副署長3」
CX 「逃亡弁護士」
NTV 「熱中時代」
EX 「ホンボン心理捜査事件簿」
CX 金曜プレステージ「悪女たちのメス」
EX 「火災調査官 紅蓮次郎12」

＜映画＞

1984年 「もうひとつの少年」 監督：磯野鐵太郎
「国東物語」 監督：石山昭信
1990年 「バチンコ物語」(松竹) 監督：辻 理
2001年 「ひとつべ」(テビートフィルム)
2002年 「夢追いかけて」 監督：花堂純次
2003年 「手紙」 監督：松尾昭典
2006年 「ドラえもん のび太の恐竜2006」アニメ声優初出演
2006年 「涙そうそう」 「木更津キャッツアイ ワールドシリーズ」
2007年 「おばちゃんチップス」主演 監督：田中 誠
2007年 「LOVE DEATH」5月 渋谷Q・AXほか公開 監督：北村龍平
2007年 主演「マリと子犬の物語」(全国東宝系) 12月8日公開 監督：猪股隆一
2009年 「ウルルの森の物語」(全国東宝系) 12月19日公開 監督：長沼誠
2010年 「誘拐ラブノディー」(角川映画) 4月3日公開 監督：柳英雄輔
2011年 「白夜行」(ギャガ) 1月29日公開 監督：深川栄洋

【現在のレギュラー】

-2時間ドラマ- 初の全曲主演レギュラー

TBS 「捜し屋★諸星光介が走る!」シリーズ・主演(月曜ゴールデン)
TBS 「特捜警察シリーズ」主演(月曜ゴールデン)
CX 「外科医 埴村周五郎 間のカルテ5」シリーズ・主演(金曜プレステージ)
CX 「所轄刑事」シリーズ・主演(金曜プレステージ)
EX 「火災調査官・紅蓮次郎」シリーズ・主演(土曜ワイド劇場)
EX 「新 船長の航海事件日誌」シリーズ・主演(土曜ワイド劇場)
TX 「刑事吉永誠一 涙の事件簿」シリーズ・主演(水曜ミステリー9)

-テレビ-

TX 「ソロモン流」(毎週日曜 21:54) 番組案内人

【不定期レギュラー番組】

CX 「江原啓之・天国からの手紙SP」司会
CX 「世界の絶景100選」
CX 「人体再生ロマンSP」番組ナビゲーター

【CM】

(株)三菱UFJフィナンシャル・グループ
八幡物産株式会社-インフォーマーシャル

【雑誌連載】

月刊テレビジャパン「船越英一郎の私的サスペンス劇場」(東京ニュース通信社)

【PV】

告白/FUNKY MONKY BABYS(ジャケットにも起用)

代表作品(ロボット)

PINO ニューヨーク近代美術館特別企画展
ベネチアビエンナーレ国際建築展
宇多田ヒカル「Can You Keep A Secret?」PV出演
Posy 全日空キャンペーンキャラクター
ルイ・ヴィトン、ゲラン、バカラ、オメガ等のイベントに多数出演
愛・地球博名古屋商工会議所パビリオンに出演
ソフィアコッポラ監督の映画「Lost in translation」出演(ディレクターズカット)
ゆず「Hey 和」PV出演
2016年東京オリンピック招致の国際プレゼンテーションに出演
外務省(在香港日本国総領事館)主催 香港における「元気な日本」展 3/24出演予定
Palette 東京表参道のルイ・ヴィトンや新宿伊勢丹のショーウィンドや世界各地の展示会にて使われている。
U.T.Palette Parisルーブル美術館にて行われた感性JapanDesign Exhibitinoに出演の他に銀座の和光など各地で展示。
Polaris KDDI社「iida」の携帯電話+ロボットのコンセプトモデルを開発
ロボットの他 航空会社スターフライヤーのトータルデザイン
ダンヒル銀座本店香港店 店舗設計
北陸銀行東京渋谷支店店舗設計
コクヨのプロダクトブランドTrystamsより「X-VIZ」シリーズをデザイン
サントリーウイスキー「山崎」特別ギフトパッケージデザイン

受賞歴

財団法人日本産業デザイン振興会 グッドデザイン賞 2000 2006 2009
Industrie Forum Design Hannover(ドイツ)IFデザイン賞 2010 2011 2012
46th ACC CM Festival ACCブロンズ賞 2006

展覧会

2006年11月から07年1月まで水戸芸術館にて「松井龍哉展 Flower Robotics」を開催



皆さん今日は!

●奥田 智美 (写真学科卒)

「みんなと一緒にじゃなきゃ嫌だ」今のご時世この言葉で溢れているような気がする。人と同じでない



と不安でしょうがないのだ。そして、世間に馴染むことができない。まさに『出る杭は打たれる』である。自分も正直、この大学に入るまでは、こちら側の人間だった。しかし、この日本大学芸術学部に入ってから、今までの考えが全て変わった。『出る杭になれ』ということを学んだ。4年間、写真学科に所属していて、3年生の写真基礎の時の西垣先生との出会いで私の頭はパーンっとはじけた。一口で「課題」と言われると今まででは苦痛ではなかったが、西垣先生の「好きなようにやりなさい。何も気にせず自由にやりなさい。」この言葉をきっかけに、一年生、二年生とは違う、私らしさや私の気持ち、表現を写真をツールとしてストレートにぶつけられるようになった。そこからの楽しさは半端ではなかった。作品作りをして気付けば朝になっていることもあった。それだけ本当に楽しかったからだ。自分の精魂込めた作品をいろいろな人に見てもらいディスカッションもした。日芸のいいところは様々な種類の学科があるところだと思っている。いろんなジャンルの友達と話すのはワクワクする。自分のできないことを出来る人が沢山いるのはすごく刺激的で、ハラハラする。本当に毎日が楽しかった。その中でもやはりいい思い出ではなく悔しい思い出もくれるのが日芸の大学生活。これから先その悔しさを踏み台にどこまで上がっていけ

本年より皆様の仲間入りをします。どうぞよろしく。

るかが今後の課題だと思う。いつかそれぞれ、みんなの悔しさを乗り越えた時、笑顔で、「乾杯」したい!!お互い目指していきましょ!!

●小山 貴大 (写真学科卒)

私は大学生活で、とにかくやりたいことをやる。好きなものや好きなことに自信を持つようにしてきました。それまで芸術とは無縁だった自分が、大学入試の面接でヨーヨーを振り回した時からそれはスタートしていたと思います。写真も同じでした。写真をちゃんと撮ったことのなかった自分は、写真学科として大きな壁でしたが、三年生のゼミでは松田先生に写真のあり方を教えていただき、自分にまた自信を持つことができました。四年では他の先生のゼミにもずっと参加したり、また別のゼミの飲み会にも参加して、いろいろな先生から吸収しようとしてしました。そして自信を持って作品を作った結果、卒業制作では賞を頂くことができ、またひとつ自分を知ることができたと思います。今やりたい事を今やること。今欲しいものを今手にすること。日本はもう明日がくる保証はありません。自信を持って今日を生きて、これからの時間も作品を作っていきたいと思っています。



●虻川 慎輔 (映画学科卒)

井の中の蛙・大海を知らず。まさにその通りで、地元宮城を飛び出た入学当時の私は、ほぼ無敵であると確信しているようなものでし



た。

私の脚本は読めば誰しもが抱腹絶倒し、涙腺が崩壊し、「涙で目が滲んでこれ以上先が読めない」などと言われるものだ、と…。中には2人3人の嫉妬に寄る批判もあるのだろうが、それを受け入れる寛大さも自分は持ち合わせているのだ、と…。

しかし、それはすぐに根拠のない妄想であることが判明しました。実際は、私の脚本を読むと誰しもが首を傾げ、「よく分かんない。これ以上先が読めない」と言われたのです。そんな友人からの批判に露骨に不機嫌になり、どう考えても気遣いと面倒臭さから誉められたのに違いない一言でさえ浮かれ尽くす様な、そんなどうしようもない男です、私は。そこに気付けたというのが、この4年間での大きな財産でした。

でも卒業を目前にして、この日藝は、井と大海を繋ぐ、川の様なものだと気づきました。これから見る世界に胸を膨らましつつ、少し怯えつつ、ゆっくりとがむしゃらに泳いでみたい。そう思うのです。皆さん、よろしくお願いします。

●海老原 彩香 (美術学科卒)

日大彫刻コースに入学するきっかけは、先輩からの進めでした。今、その事にとっても感謝しています。



日大での四年間、彫刻だけではなくこれからの人生で大切なことを学び、良い仲間に出会いました。制作をしていると誰かがのぞきに来る、逆に私ものぞきに行く、そして作品について考え、話し合うことで、より良い作品を作ろうと頑張ることがが

できました。そして彫刻コース有志で参加した大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレでは、家一軒を作品にしてしまうという貴重な体験をしました。地元の方々や仲間達と力を合せ、一つの大きな作品を作ること、物を作ることの本当の楽しさを知ることができました。

きっかけを作ってくれた先輩、色々教えてくれた教授の方、一緒に制作した仲間達、支えてくれたたくさんの人、自分の好きなことをしなさいと言ってくれた家族に、心から感謝しています。皆さんありがとうございました。これからもずっとよろしくお願いいたします。

●橘川 裕輔（美術学科卒）

「負け組からのスタート。」一浪したが、希望の美大に入らず、日芸に来了。だから大学には失礼だけど、当初の僕は負け組だ。



へっぽこな才能しか無いうえに、受験の努力が報われず、絵を描くのが嫌になっていた。でも負け組のままじゃ嫌だった。ならば、さらに努力するしかない。

学校ではもちろん、通学の電車内でも絵を描いた。講義にも手は抜かなかった。とにかく、できる事は全力でやった。

継続は力なりと言うが、3年生になってようやく、自分独特の表現を見つけた。そこからが本当に楽しかった。筆を握る度に、これまでに無い急激な成長を感じ、絵を描く時間はどんどん増えていった。代償にお腹の脂肪も増えたけど。

そんなこんなで気付けば、卒業制作が学部長賞を頂くまでになっていた。負け組みだった自分が、最高の形で学生生活を終えたのは素直に嬉

しい。でも本当の勝負はこれから。勝って兜の緒を締めろ！あと、腹のお肉も何とかしよう。

※最期に4年間僕を支えてくれた家族、友人、先生、全ての人に感謝します。

●土井 梨沙（音楽学科卒）

日芸で過ごした4年間は、私の人生の中でもとても大切な時間でした。



高校は音楽高校に通っていたということもあり、自分の音楽に対してはとても強い自信を持って入学しました。人の音楽や意見を受け入れず、高いプライドだけで過ごしていました。気がつくと、いつまでも自分の殻の中に閉じ籠ったままの私が居て、周りにはどんどん先へ行っている事に気がきました。それからは今までの変なプライドは捨て、人の音楽や話をよく聞き、考え、たくさんの人と交流を持ち語り合う事を心がけました。すると、今までより純粋に音楽を学びたいという意欲が湧いてくるようになりました。いい音楽が出来ず悩み苦しむ時もありましたが、そんな時いつも支えてくれたのは周りの友人でした。友人がくれる言葉1つ1つが、今の私に繋がっています。信頼出来る仲間と音楽ができた事を幸せに思います。

春からは、陸上自衛隊に音楽要員として入隊します。新たな地で出会った仲間と共に、また日芸での想い出を励みに頑張っていきたいと思います。

●本田 優里（音楽学科卒）

3歳からピアノを習い始めた私は、演奏する楽しさに魅了され、小学校から現在まで吹奏楽に熱中し、部活動や一般団体で活動してきまし



た。そのなかで、次第に私は吹奏楽部の指導もできる教員になりたいと思うようになり、本校の音楽学科に入学しました。

他の音楽大学に比べ、少人数規模の日芸は、私のような音楽教育コースの生徒や他学科の生徒でも弦管打楽コースの仲間と同じ専門的な先生方のレッスンを受けることができるのです。いままでほぼ独学で楽器を吹いていた私にはとても貴重な経験となりました。

また、もともと障害児教育にも関心があった私は、音楽療法に関する科目を積極的に受講しました。大学3年のときには、1年間聴講生として高齢者や障害者の施設への実習に参加させてもらいました。実習の準備には膨大な時間がかかり、とても大変でしたが、実習先の方々が楽しそうに笑って参加してくださっている姿を見ると、そんな苦労はいつもどこかに飛んでいってしまいました。

そんな私は、ずっと夢見ていた職業に就くことになりました。今後は、日芸で学んだことを生かし、教育者として沢山の人々に音楽の魅力を伝えていけるよう努力していきたいです。

4年間ありがとうございました！！

●黒沼 千春（文芸学科卒）

「何で文芸学科にいるの？」よくいろんな人に言われ、自分でも疑問だったこと。文芸学科でやりたいことはあった。だから入学した。しかし、元々国語は苦手だったし、学



外でのバレエやダンスがメインで、その間に書道と芝居をかいつまむ生活をしてきたから、文芸学科ではなくて演劇学科に転科すべきじゃないとか、中退して専門学校に行こうか、などと真剣に考えた事もあった。

だが、幅広いジャンルの物事に触れていたかった私は、やっぱりこの日芸で、且つ、時間に融通が利く文芸学科がベストだった。更に、この学科では、連句や俳句に出会った。私の複雑な感情と屈折した表現を初めて認めてもらうことが出来た。DTPに出会った。正直、出版編集に然程興味は湧かなかったが、パソコン好きな私は photoshop や Illustrator が楽しくて仕方なかった。そして、何より、大切な友達と出会った。もちろん他学科の友達も大切だが、この4年間を文芸学科として楽しめたのは、紛れもなくこの学科の、明るくて優しく、でも、ちょっとおかしい、そんな友達たちのおかげだと思う。これからは自分一人の力で生き抜くしか無いけれど、この大学在学中に肌身感じて学んできたことを糧にこれからも頑張っていきたいと思う。やっぱり、この学科で良かった! 日芸で良かった! 本当に楽しかった。4年間ありがとうございました!

●宮崎 隆 (文芸学科卒)

日芸にいて、とひとに話すと必ず訊かれるのが、「絵、うまいんだ?」でした。いや八学科あって云々、のくだりを説明するのが億劫だったので、毎度適当に相づちを打っていたのですが、ある日ふとチラシの裏に猫の絵を描いてみたら、それが驚くほど猫ではなくて、何だか恥ずかしくなったのを覚えています。それから僕は、四年の歳月、練習をしてなんとか鶏の絵だけ写実的に描くことができるようになりました。

つまり、日芸とはそういう場所なんじゃないかと思います。

気づくことと、自発的であること。その繰り返しが、多くのものをもた

らし、自分の糧となる、そんな気がします。

そうは言っても、これらをずっと維持できるひとはなかなかいないように思われます。大学生活は楽しいです。その分誘惑も多く、結局僕は、鶏の絵しか描けませんでした。時間はあっという間に過ぎます。タイムイズマネーです。

悔いの残らない学生生活を送ってください。

ご入学おめでとうございます。

●石川 和音 (演劇学科卒)

まだ未完成だった新しい江古田校舎で入学試験を受けたときは、将来の目標なんて明確に見えてなくて、この大学で本当にやりたいことを見つけられたらいいなあと気楽なものでした。それが、四年間ここで学んできて、さまざまな面白い人たちと出会って、いろいろな経験をして、私もやっと演劇で生きていく覚悟ができたんだなあといいところまで来ました。

舞台総合実習を受けて演劇をやっていたという気持ちが強くなって、たくさんの素晴らしい先生と演劇人に出会って、演劇を通して本当に信頼できる仲間とライバルにも恵まれました。演劇以外のことで、新歓行事や芸祭で委員会活動をしたり仲間と馬鹿みたいに一緒になって騒いだり、それこそ青春を謳歌していました。そんな日芸での四年間は本当にあっという間でした。

この学校で私は、自分は演劇が好きで、演出をしているときが楽しくて、演劇を真面目に取り組んでいる人たちのことを尊敬しているのだと実感したら、もうこの世界から抜けられなくなってしまって、卒業後は

念願かなって商業演劇の世界で働くことになりました。ここでのすべての出会いと経験に感謝します。本当にありがとうございました。

●七字 紗衣 (演劇学科卒)

さて何を書こうか、と頭の中で延々大学生活を振り返ってみたが、演劇学科での4年間はあまりに密度が濃すぎて私にはとてもうまくまとめることができない。ただ言えるのは、演劇学科での4年間は間違いなく「楽しかった」ということだ。

大学で演劇を学ぶというのは特殊なことだ。ただ俳優になりたければ、高校卒業後すぐに養成所などに入り、なるべく早いうちから具体的な活動をした方がいい気もする。

それでも私は日芸演劇学科に入って良かったと思っている。なぜなら、同じ志を持った数多くの仲間に出会うことができたからだ。

授業の一つ一つから演劇について色々と学んだのはもちろんだが、それに加えてさらに多くのことを仲間たちから教わったと私は思う。8学科一であると自信を持って言えるくらい真面目なことにもくだらないことにも気持ち悪い程全力で取り組む皆が私は大好きだった。時には励みになり、時には自分を冷静に見つめる鏡にもなったり、そんな仲間たちとこんなに濃い生活を送れる場所は他になかったと思う。

4年間の大学生活を経て、今尚生涯演劇に携わっていきたいという夢を持ったまま卒業できるのも、共に学んだ仲間たちのおかげであり、この先輩、後輩、そして同輩の友人たちに囲まれて4年間を過ごせたことが、私にとってはただただ幸せだった。

楽しかった。そう思える大学生活



を送れたことが何よりの私の財産だ。

●富田 奈央子 (放送学科卒)

書いた文章を一度全て消してしまった程、私にとって日芸は大変思い入れのある大学です。女子アナになる。これが入学前からの夢でした。AOで合格し、地元の期待を多く背負って入学した私は、それをプレッシャーに感じ、自らの首を絞めていました。その反面日芸にいれば技術も磨けるし、夢は叶うだろうと甘く考えていた自分もいたのです。しかし、女子アナへの道はそう簡単には行きません。就活を始めて1年3カ月が経った頃、頂いた内定はゼロ。最初に抱いていた重圧が益々大きくなっていきました。そんな中、東日本大震災が起きました。偶然にもゼミの先生が被災地のご出身でした。故郷が甚大な被害を受けるという悲しみを、恩師が体験したのです。それまで抱いていた、地元の応援が重圧だという気持ちが一変しました。結果的に、私は岩手県のテレビ局にアナウンサーとして内定を頂き、夢を叶える事ができたのです。誰にでも故郷があります。故郷を大切に思う気持ちを伝えられるアナウンサーとして、岩手を元気にしていきたいと思っています。



●福田 浩大 (放送学科卒)

大学での四年間を振り返ると、本当に内容が濃すぎて、すべては書ききれない。その中でも特に良かったことを選ぶなら、たくさんの良い「仲間」に出会えたことだろう。在学中、本当にたくさんの出会いがあり、またたくさんの衝突があった。



学科での活動だけでなく、部活動に入っていたこともあって、他学科の人ともコンタクトをとる機会がしばしばあった。そういった多くの人との出会いの中で、「仲間」に恵まれた、と感じている。

高校までに出会った友人や先生方もユニークな方が多かったが、日芸で出会った友人、先生方は一人一人の印象がさらに強かった。志の高い人間が多く集まってくる日芸でたくさんの良い仲間に出会えた。卒業してもなお強い結びつきが残るだろう仲間に出会えたことが、日芸で四年間を過ごして何より良かったと思えることだ。

四月からはテレビ局にアナウンサーとして勤めることになる。今まで指導して下さった先生方に改めて感謝すると共に、今まで以上に会おう方すべてに感謝しなければならないと思っている。

●京野 朗子 (デザイン学科卒)

「どうすればこのひとに喜んでももらえるかな」「このひとはなにを考えているのかな」。そういうことを思いながらいつも過ごしています。たとえば、笑顔であいさつをする。「ありがとう」と「ごめんなさい」を素直に言う。ものを贈るときに手紙を添えてみる。だれでもちょっとしたことで、相手をほっこりあたたかい気持ちにしてあげることができます。わたしの場合はそれが、イラストや似顔絵を描くことであったり、一歩うしろに下がってまわりを見渡すことであったり、みんなの声をまとめてわかりやすく伝えることでした。自分のために動くことはいくらでもできるけれど、ひとのためにというのはなかなかむずかしいです。それ



でもできるだけ「自分が好きだから」「自分が得意だから」ではなくて、「あのひとにこう感じてもらいたい。そのためにはどうすればいいか」を丁寧に考えながら、これからも過ごしていきたいです。

●長谷川 真之 (デザイン学科卒)

私が入学した2008年と今を比べると、ハイハイしていた赤ん坊が自ら立ち上がり、言葉を覚え、会話をしだす子供ぐらいの成長だと思っています。



私が工業デザイナーを目指し始めたのは、今から10年前。中学2年生の時に「INFOBAR」という斬新なデザインの携帯電話を見て衝撃を受けたことがきっかけでした。業界の知り合いもいなかったのも、大学では工業デザインを学びたいと思い、専門コースのある大学を受験しました。

日芸に縁があり、一浪を経て「デザイン学科インダストリアルデザインコース」に進学しました。大学時代は、業界で有名な先生方、モチベーションの高い仲間・先輩達に出会え刺激的な毎日でした。専門的な授業の提出間近などは、時に週に2回徹夜するくらい忙しかったけれど、良い仲間達と出会え、本当に楽しい大学生活でした！

仲間達で行った、デザイン合宿、海外旅行、スノボー、キャンプが今となれば懐かしい思い出です。卒業後は、PCのマウス、携帯電話のカバー等を扱う「ELECTRONIC株式会社」の製品開発デザイナーとして働く予定です。

ここからがデザイナーとして出発時点。形として成果を出せるよう努力して行きたいです！そして仲間達の活躍にも期待してます。共に頑張りましょう！



新年顔合せ幹事会

1月7日(土)
於：池袋メトロポリタンホテル



24年1月7日(土)新年顔合わせ幹事会が池袋メトロポリタンホテルで開催された。4時から、4階松風において江古田会支部総会を開催した。新潟江古田会をのぞき12県の支部江古田会と台湾・韓国の江古田会が出席され有意義な意見交換がなされた。また、フォークソングOB会より東日本大震災で甚大な被害を受けた東北3県岩手・宮城・福島へとお見舞い金を預かり、当日会長より手渡された。

6時から、新年顔合わせ幹事会が3階富士に於いて開催された。総勢52名の出席者で小泉定弘(写41)常任幹事の司会進行で始まった。

綾部東洋子会長による年頭の挨拶。来賓野田慶人学部長の御挨拶と乾杯の音頭でメトロポリタンホテル“富士の間”に大きな御発声となって響きわたった。

恒例ゲストコーナー。進行役清水

泰博(音54)常任幹事の紹介で登場の長野江古田会中川真由美(音H5)さんのピアノ演奏。そして蓬田秀泰(音41)北海道江古田会支部長による歌。お二人の軽快かつ重厚な演奏と歌でのこのコーナーは進行役含め音楽学科仕切りとなった。

これも又恒例となったビンゴ。参加者の方々からの持ち寄っていただいた多数の景品(ゴルファー横峰さくらさんサイン入りゴルフ帽・手作り大根等々)は進行役向瀬俊春(演48)常任幹事と昨年もお手伝いをしていたいただいた原一平(演48)幹事による“掛け合いビンゴ”で行われ、笑いの中、楽しいひとときを過ごした。

会は佐々木照男名誉顧問の中締めのお言葉をいただき定刻20時、終会とした。

目立たない所で頑張っていたいただいた高松豊(美41)、阿部靖夫(映

44)、田中光子(写53)常任幹事の皆さま、御苦勞さまでした。そしてお手伝いいただいた皆様、ありがとうございました。



新潟江古田会総会

10月1日(土) 於: ANA クラウンプラザホテル新潟

平成23年10月1日、ANA クラウンプラザホテル新潟に於いて、日本大学藝術学部より木村政司教授を、藝術学部校友会より原直久教授をお迎えして新潟江古田会総会を開催いたしました。

会員の出席は16名と少しこじんまりとした会となりましたが、和

気あいあいの中に意見交換が行われました。

新潟江古田会 会長 和田 和男



宮城江古田会総会

10月14日(金) 於: 北の一

宮城江古田会平成23年度通常総会は震災により半年遅れの10月14日、仙台市一番町の「北の一」で開催された。議事に先立ち東日本大震災直後に亡くなられた門間徳二さん(文芸・46卒)はじめこの1年でご逝去された3名の会員の冥福を祈り黙とうをささげた。

会長挨拶では、この総会に合わせて発刊した会報「日芸みやぎ」の継続と、他県江古田会との交流をお願いした。桑折事務局長より22年度の活動及び芸術学部校友会お見舞い金を含む会計報告、23年度の事業計画及び予算の説明、会報委員選任案件が拍手をもって承認された。

芸術の秋、集う仲間と…秋を盛る『祝いの宴』の一筆が添えられた海の幸山の幸が並ぶ懇親会では、綾部校友会会長より、各江古田会の活発な活動の様子報告や台湾江古田会との交流のお誘いを頂いた。

会員の近況報告では、被災当日の生々しい体験、本震と余震での建物・家財被災、電気・水道・ガスの長期間復旧遅れによる苦労が報告された。また気仙沼市と石巻市の会員からお見舞い・支援の御礼が伝えられた。

異色を放ったのは伊藤(一郎、美術・44卒)・大河原(裕、写真・50卒)の漫才コンビ。そして伊藤会員の笑いの体操。ワッハッハッで懇親会を締めしたが、この勢いは二次会まで続いた。

翌朝、綾部会長は仙台市周辺の

被災地を視察。リアルタイムで放送された仙台市荒浜や仙台空港周辺への津波襲来映像と、眼前に延々と広がる荒野の現実を重ね合わせ、心に焼き付けておられました。

宮城江古田会 塚崎隆夫(写真・42卒)



岩手江古田会総会

10月15日(土) 於:エルミタージュ

2011年度の総会を10月15日(土)県の南部に位置する奥州市のレストラン、エルミタージュで開催しました。

芸術学部校友会より綾部会長と原副会長のお二人のご出席をいただきました。

総会では、國分会長の挨拶のあと審議に入り、3年後の平成26年に創立10周年になるのを記念して、会員の作品発表会の計画や会の運営と会員の充実発展のために役員の補充等を満場一致で承認しました。今回は初参加の藤原(亮)、川村(写真学科)両君を加え若い世代の出席も増えてきました。

また、校友会本部よりいただいた支援金は東日本大震災で被災さ

れた会員の支援として利用することが報告されました。現在、沿岸部に在住する会員の大きな被災は報告されていません。岩手県も沿岸部一帯に甚大な被害を受け、多くの方が被災し、亡くなりました。被災地の復旧は始まったばかりですが、一日も早い復興を願わずにられません。

昨年から計画していた台湾江古田会総会に岩手から國分・高橋(比)鈴木(玲)の3名、宮城、熊本各支部から3名、本部から3名で参加してきました。台湾には写真学科原先生の関係者が沢山おられて、熱烈歓迎を受けてきました。

今年岩手にとって明るいニュースは平泉中尊寺などが世界遺産に

登録されたことです。

みなさん「岩手さ おでってくなんせ」

岩手江古田会 事務局 上田輝仁



第6回長野江古田会総会

10月22日(土) 於:アマンダンスカイ

長野江古田会平成23年度の総会は10月22日(土)、午後4時から平成23年5月に国宝善光寺の裏山、善光寺平一望の抜群のロケーションの地にオープンした(株)ノバレーゼ、アマンダンスカイで開催された。

前年22年度は、長野江古田会発足満5周年の記念事業「日芸アートフェスティバルIN中条」を行い地方からの日芸らしいアートの発信の目標が適えられたので23年度は一息ついた総会とし開催、ご来賓としてご出席予定の野田学部長様がこの度び日本大学副総長と芸術学部長の両要職にご就任のため公務多忙につきご出席がかなわず、校友会本部から綾部東洋子会長様

のご出席を頂き、会長より学部全体の現状、校友会活動の説明と合せ、ご要望などお話しを頂き、総会も議案も報告の通り承認され終了、その後県内はもとより国内、海外で活躍の当会々員長野市在住ピアニスト中川真由美さんのミニピアノコンサート&ディナーに切り替え、善光寺平一望の素晴らし

い夜景をバックに心にしみいるピアノ演奏と美味しいディナーをいただき、来年の総会に想いをはせ乍らの感動のひと時を過ごす事が出来ました。

支部長兼会長 酒井喜仁(演32年卒)



2011年11月26日昼、台北市内の華山芸文園区内にある欣葉レストランにて、台湾江古田会総会及び懇親会が行われました。当日、野田慶人学部長を始め、原学部次長、校友会会長綾部東洋子様、また岩手県支部、熊本県支部、仙台支部の代表の先輩方を来賓として迎え、参加総人数45名が集まりました。

当日の総会は、林俊宏会長の挨拶から始まり、今年度の江古田校友会の連絡事項や会計報告等があり、次年度の行事予定も議論しました。また、野田学部長や綾部会長から母校の近況報告をしていただきました。

懇親会では100品を超える台湾料理をbuffet方式で頂きながら、台湾と日本の校友が共に歓談し合い、3.11東日本大震災発生後の台湾

国民からの義援金や支援活動のことについても言及されました。懇親会の後半には野田学部長や綾部会長から用意して頂いた母校の記念品と原学部次長の写真作品を景品として抽選会を行い、大いに盛り上がりしました。

今回は日本の東北から九州の日芸校友会支部会員がツアーで海外(台湾支部)の総会に参加するという前例がないということで、綾部会長は「校友会という目に見えない絆や

ネットワークを見えるものに」と、お便りに書かれました。台湾江古田会のメンバーが卒業してからは日本の校友と会う機会がありませんが、今回の交流でより一層の親睦を深めることができました。日本からお越しの皆様にとっても感謝しています。



盛況だった芸術祭

それは昨年の芸術祭、校友会お休み処に1人の先輩校友が訪れたことから始まりました。

今や天涯孤独の身となり、せめて思い出深い母校の姿を目に焼き付けておきたいと、校友会のお休み処を訪れたのでした。

この年は新校舎完成直後の芸術祭とあって、そこには斬新に変わった新校舎の姿が…

母校の思い出を、ほんの少し探しに訪れた先輩校友だったので、唯一お休み処にあった思い出関連といえば、ホームカミングデーで配布された、旧校舎解体を撮った映像・DVDでした。

直ちにデッキとテレビをセットし、この時はその映像を観ながら思

い出話しに浸ったのでした。

こうした経緯から「芸術祭」へ如何に先輩校友の方々を来校・来場へと導くのか、その環境創りとはどのようにすれば良いのか、そのための“演出”と“手法”について、議題にすべく幹事全員で話し合い、一致しました。

こうして校友会では、その先輩校友の思いを会報86号に託し「探しています!」という内容で旧校舎の写真募集したところ、懐かしい写真が多数集まりました。

そこで私共は、送付頂いた懐かしい写真を今回の芸術祭に展示することに致しました。

2011年11月3日(祝)晴・午前10時、秋とは云うものの気温は27

度の夏日の中、日本大学芸術学部の「芸術祭」が開始されました。

スタートして間もない10時半過ぎには、お休み処はすでに場内の約半分を校友が占めるほど、過去にない好発進の初日となりました。

何より驚いたのは、今回写真を郵送して頂いた大先輩の校友数名が、この校友会お休み処にわざわざ足を運ばれ、改めて展示された写真をご覧になり、当時の記憶や思い出話へと、会場内は大いに盛り上がったことでした。

結果、今年の校友会お休み処への来場者は昨年の約3倍、これは昨年開催された芸術祭3日間の来場者が、なんと初日で達成されたことになる程の大盛況となりました。

因みに、開催期間中芸術祭への総来校者数は…

- ◆初日の総来校者数：1万人
- ◆2日目総来校者数：3千人
- ◆3日目総来校者数：9千人

これもひとえに、皆様方のご協力



の賜物と思っております。

そして、この貴重な写真をご送付・ご寄付頂いた校友の皆様方へ、ここに慎んで御礼申し上げます。

・

最後に、特に今年は東日本大震災の発生した年であり、東北のいくつかの支部が被災したと聞いて



おります。

新しい年へ向けお互いに助け合い、それこそ日大の精神「絆」をもって、明るい未来を皆で築けることを祈願しております。

◆ Special Thanks ◆

— ご送付頂いた方々 —

井口 和美 様・伊藤 義一 様
伊藤 聡 様・加藤 史江 様
清水 栄 様・城野 正幸 様
三雲 保子 様 (50音順)

学部ニュース

去る3月25日に平成23年度卒業式及び学位記授与式が挙行されました。日本大学総長賞・優等賞、芸術学部長賞、芸術学部奨励賞など卒業生、大学院修了生に対する各賞の発表及び表彰がありました。

●日本大学総長賞（学業部門）

○写真学科 谷口光子

●日本大学優等賞（学業部門）

○写真学科 遠藤真人 金 兌蘭

○写真学科 佐藤紀子 谷口光子

○映画学科 須藤清夏 秋山美帆

○映画学科 古川千春 申 東玉

○美術学科 西美樹子 鈴木有希子

○美術学科 伊藤みどり 吉原沙織

○音楽学科 伊藤元成 田村華生

○音楽学科 佐藤直哉 戸部愛未

○文芸学科 松永寛和 高橋由衣

○文芸学科 齋藤香織 古谷奈津子

○演劇学科 淡路玲子 中根百合香

○演劇学科 庄司美星 田中愛理

○放送学科 豊田大輔 秋田堯律

○放送学科 長澤 蘭 井上佳央里

○デザイン学科 千葉菜々子 片山拓人

○デザイン学科 赤塚 悠 日鼻 優

●日本大学奨励賞（学術・文化部門）

長尾舞夢（演劇1年）

●芸術学部長賞（学業部門）

○写真学科 遠藤真人 谷口光子

○写真学科 堀内慶太郎 川嶋謙吾

○写真学科 小山貴大

○映画学科 千葉佐記子 中村桃子

○映画学科 秋戸香澄 笠原慎太郎

○映画学科 大畠奈菜子

○美術学科 豊田佳菜子 橘川裕輔

○美術学科 田崎彩音 船橋みふゆ

○音楽学科 佐藤 圭 黒田 恵

○音楽学科 山之内美和 藤原沙織

○音楽学科 佐藤直哉

○文芸学科 尼崎愛美 伊藤多季人

○文芸学科 青木 瞳 御手洗紀穂

○文芸学科 藤方玲衣

○演劇学科 村上友里恵 八幡みゆき

○演劇学科 庄司美星 西野加奈子

○演劇学科 佐伯将太

○放送学科 小野真実 井上佳央里

○放送学科 黒田惟子 富田奈央子

○放送学科 長吉優介

○デザイン学科 千葉菜々子 岡崎洋佑

○デザイン学科 鈴木勇波 市橋正崇

○デザイン学科 萩尾衛俊

●その他の部門

○文芸学科 高野和彰

○放送学科 本郷 哲

●芸術学部奨励賞

○写真学科 栗原小織

○映画学科 川元美季

○美術学科 猪狩千恵子

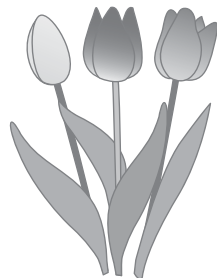
○音楽学科 戸部愛未

○文芸学科 徳原友里

○演劇学科 三籙萌実

○放送学科 秋津堯律

○デザイン学科 野村友樹子



学科ニュース

写真ブロック



●平成23年度芸術祭展示作品の中から学科奨励賞が下記のとおり3名の学生へ授与されました。「mimicry」酒井成美(4年)、「no-title」小暮和音(3年)、「僕の実験室」加藤雄也(3年)です。
●平成23年11月14日に伊藤之一氏(平2卒)により「広告写真家・作家への道」、

続いて平成24年1月13日に今井智己氏「写真制作の実際について」の特別講座が江古田校舎で行われました。また平成24年1月20日には客員教授大石芳野氏の特別講座「写真とわたし」が所沢校舎で行われました。

●2012卒展が平成24年2月17日～3月3日に日本大学芸術学部江古田校舎芸術資料館で行われました。展示作品の中から河野優太「PLANT」、小林さゆみ「追隨」、若林朝恵「Promised Land」に写真学科奨励賞が、また川嶋謙吾「A ROUND THE WORLD」に

新写真派協会賞が授与されました。

●日本大学芸術学部写真学科卒業制作選抜展が平成24年2月23日～2月28日に四谷のポートレートギャラリーで行われました。この展覧会は卒業制作を初めて校外で展示したものです。展示希望者を公募し、審査をへて選抜き開催となりました。出品者は安達洋子「RECUEIL-garder/liberté」、遠藤真人「煙道」、川嶋謙吾「A ROUND THE WORLD」、小山貴大「Je vous en prie」、酒井成美「Mimēsis」、堀内慶太郎「ツクヨミ」の6名です。

映画ブロック



●平成22年度映画学科各賞が、次の卒業生の論文・計画・制作に授与されました。

☆第39回渡辺俊平記念賞

(脚本) 島田康貴

☆第14回菅見有弘賞

(理評) 松永理人

☆第5回大竹徹賞

(脚本) 増田芽以

☆第5回八木信忠賞

(録音) 志摩賢太

☆第36回映画学科奨励賞

(理評) 岡野 彩、(映像) 山田智和、(脚本) 虻川慎輔、(監督) 遠藤沙紀、(撮影) 村田圭佑、(録音) 松山千紘、(演技) 金子彩奈

☆第21回映画学科選奨

(理評) 二階堂峻、(映像) 小久保晴太郎、(脚本) 八木拓磨、(監督) 小白井俊樹、(撮影) 古川千春、(録音) 金山はづき、(演技) 牛島僚太

☆第19回映画学科特別賞(フジフィルム提供)

(理評) 木嶋友貴子、(映像) 原 藍子、(脚本) 大杉磨耶、(監督) 塙 芽衣、(撮影) 海部光一、(録音) 矢野詩音、(演技) 五十嵐千晃

☆第9回東芝ライテック・アートライ

テック賞

(撮影) 武田浩明

☆第10回映画学科コダック賞

(撮影) 藤原拓海、横山裕香、荒木宏美、(録音) 川澄さおり、ルローロックトマ賢策、(演技) 厚木拓郎、呉 知政

●映画学科で教鞭をとっていただいた、鈴木良典講師(「録音研究」)が退職されました。ごろうさまでした。

●平成23年度より次の先生が新しく映画学科の講座を担当します。

高山英丈講師(平成16年度映画卒、担当「音響表現」)、井上眞介講師(昭和46年度映画卒、担当「映画演出」)、鈴木昭彦講師(担当「卒業制作」)です。

美術ブロック



○298人展(富井大裕助教)
5月2日～6日 名古屋市民ギャラリー

矢田
9:30(初日13:00)～19:00(最終日17:00)

○笹井祐子 個展(笹井祐子准教授)

5月 色彩美術館

○アウトレンジ2012

富井大裕(助教) 峰村俊介(H24卒)
倉岡良太(院2年)

6月6日～19日 文房堂ギャラリー

○内山翔二郎展(内山翔二郎助手)

6月30日～7月22日 10:00～18:30(水曜定休) Plaza Gallery

○鞍掛純一 かたちを生む方法

7月17日～8月4日 江古田校舎

ギャラリー棟 A&Dギャラリー 彫刻地下スペース

○ 越後妻有アートトリエンナーレ
7月29日～9月17日 十日町市 津
南町
鞍掛純一＋日大藝術学部彫刻コース有

志 他
○ モノの変奏 星と森の詩の美術館
8月3日～9月30日 鞍掛純一(教授)
富井大裕(助教) 飯田竜太(平成16卒)

小池一馬(平成15卒) 内山翔二郎(助
手)

音楽ブロック



●平成23年度 卒業論文要旨発表会

平成24年3月21日(水) 江古田校舎・
音楽小ホールに於いて、卒業論文が優秀
であった学生による卒業論文要旨発表会
が開催されました。発表者は次の通りで
した。

<音楽教育コース>

坂本えみ、青野明香、戸部愛未、松田優一

<情報音楽コース>

田村華生、曾根啓太郎、佐藤直哉、中野
翔三

●平成23年度 卒業演奏会

平成24年3月21日(水) 練馬文化センター
小ホールに於いて、卒業演奏及び卒業作
品で優秀であった学生の出演する卒業演
奏会が開催されました。出演者は次の通
りでした。

<声楽コース>

松田麻枝(ソプラノ)、磯野 恵(ソプラ
ノ)、菊田杏奈(ソプラノ)、佐藤 圭(テ
ノール)

<ピアノコース>

渋谷ひかり、里村亮祐、菊池亮太、金田

夢子、黒田 恵

<弦管打楽コース>

大和田仁美(サクソフォン)、菊川 暁
(クラリネット)、石井達也(クラリネット)、
鈴木翔大(トランペット)、山中一
茂(打楽器)、山之内美和(ヴァイオリン)、
藤原沙織(フルート)

●第82回読売新聞主催新人演奏会 東京 文化会館・大ホール

平成24年5月3日・4日

ヴァイオリン独奏 山之内美和

ピアノ伴奏 菊池 亮太

フルート独奏 藤原 沙織

ピアノ伴奏 里村 亮祐

ピアノ独奏 黒田 恵

テノール独唱 佐藤 圭

ピアノ伴奏 金田 夢子

●第18回日本ピアノ調律師協会 新人演 奏会 東京文化会館・小ホール

平成24年4月29日(土) 17:00 開演

ピアノ独奏 黒田 恵

●ヤマハホール・コンサートシリーズ

「音楽大学フェスティバル・コンサートシ
リーズ vol.3」

平成24年5月5日(土・祝) 14:00 開
演

ピアノデュオ 日高 麻子・杉崎 亜柚

サクソフォン 渡辺 定路

ピアノ伴奏 佐藤 蓉子

●ヤマハ管楽器 新人演奏会

平成24年5月24日(木) 第16回木管楽
器部門 ヤマハホール

サクソフォン独奏 大和田仁美

平成24年5月25日(金) 第28回金管楽
器部門 ヤマハホール

トランペット独奏 鈴木 翔大

●ムラマツ・フルートデビューリサイタル

平成24年7月8日(日) 16:00 開演

東京オペラシティ・リサイタルホール

フルート独奏 藤原 沙織(小リサイタル
の形で演奏します。)

●平成24年度 音楽学科夏期受験準備講 習会

平成24年7月26日(木)～29日(日)
に開催いたします。校友会員の皆様のお
知り合いを、ぜひご紹介ください。

●平成23年度で退職なさった先生は次の
通りです。長い間、ありがとうございました。

中島伸行先生 加藤 卓先生 四戸世紀先生

●今年度より次の先生が新たに講座を担
当しております。

右近大次郎先生(オーケストラ) 小澤由
佳先生(作曲論) 鈴木 俊哉先生(音楽
学) 菱沼尚子先生(作曲) 茂手木潔子
先生(音楽史)

文芸ブロック



■第10回江古田文学賞発表

第10回「江古田文学賞」は、平成

23年8月31日に応募を締め切り、
114篇の作品が集まりました。その中
より11篇が予選を通過し、10月15日、
日本大学芸術学部江古田校舎にて行わ
れた選考会にて「犬小屋」「へびとむ
らい」「俺とマッ缶の行方」の3篇が
最終候補作となり、選考の末、文芸学
科2年、杉山知紗さんの「へびとむら

い」が第10回江古田文学賞に選出さ
れました。

■中野沙羅さんが第28回織田作之助 青春賞佳作受賞

第28回織田作之助青春賞が平成24
年1月6日に発表され、文芸学科3年、
中野沙羅さんが「フリーク」で織田作
之助青春賞佳作を受賞しました。受賞

作は、毎日新聞社のホームページに掲載されています。

■卒業生の岩関昂道さん『ソラの星』

刊行

平成 20 年度文芸学科卒の岩関昂道さんの処女小説『ソラの星』がメディ

アワークス文庫から平成 24 年 1 月 25 日に刊行されました。

演劇ブロック



◇前期実習発表スケジュール

平成 24 年度前期も所沢校舎・江古田校舎におきまして、さまざまな実習発表を実施いたします。校友の皆様方のご来場をお待ちしております。尚、各発表に関しましては、インターネットからの事前予約が必要です。詳しい予約スケジュール及び予約方法に関しましては、演劇学科ホーム

ページ

<http://theatre.art.nihon-u.ac.jp/>でご確認ください。

後期発表スケジュールに関しましては、次号にてお知らせさせていただきます。

※タイトル及び詳しい内容は演劇学科ホームページでご確認ください。

※○＝江古田校舎 ●＝所沢校舎

○舞台総合実習Ⅲ A (演劇)

・演出指導：山田和也

・6月8日(金)～10日(日)

・江古田校舎 中ホール

○舞台総合実習Ⅲ C (日舞/創作)

・創舞指導：花柳基

・7月7日(土)

・江古田校舎 中ホール

●舞台総合実習Ⅰ A (演劇)

・演出指導：桐山知也

・7月12日(木)～14日(土)

・所沢校舎 アートセンター・ブラックボックス

○卒業制作(日舞)中間審査発表

・創舞指導：花柳昌太郎

・7月21日(土)

・江古田校舎 中ホール

●舞台総合実習Ⅰ B (演劇)

・演出指導：鶴澤秀行

・8月2日(木)～4日(土)

・所沢校舎 アートセンター・ブラックボックス

放送ブロック



■春風亭一之輔さんが真打に昇進

落語家の春風亭一之輔さん(平成 12 年度卒・本名：川上隼一)が、この春、真打に昇進されました。

昨秋、(社)落語協会より公式発表され、真打としては異例の 21 人抜きとなる大抜擢の昇進となりました。3 月 8 日に帝国ホテルで行われた記者会見では、「寄席のお客さんをもっと増やせるような高座を目指したい」と意気込みを述べられました。

3 月 21 日の上野鈴本演芸場を皮切りに、5 月 20 日の国立演芸場まで、都内各所の演芸場で真打昇進披露興

行が開かれています。また、6 月 7 日にはよみうりホール、翌 8 日は日本橋劇場と今後も興行が随時予定されています。詳細は、HP「いちのすけえん」(ichinosuke-en.com)をご覧ください。

■ラジオドラマ「鉄になる日」が芸術祭大賞を受賞

大阪の毎日放送(MBS)が制作したラジオドラマ「鉄になる日」が第 66 回芸術祭ラジオ部門で大賞を受賞しました。本作の制作を放送学科の卒業生、織田真介さん(昭和 54 年度卒)が担当されています。

架空の大阪を舞台に、社会の隅に追いやられた主人公が、鉄人と人間の狭間で葛藤する姿を描いた作品です。現代社会にも通じるメッセージが込められたこのドラマは、昨年亡くなった小松左京の「日本アパッチ

族」が原作で、鉄人という架空の存在を音で見事に描いた作品です。

■新書「仁義なき日本沈没」の紹介

春日太一さん(平成 13 年度卒)の新書「仁義なき日本沈没 東宝 vs. 東映の戦後サバイバル」が、この春、新潮社より発行されました。

本書は、1973 年に公開された東映『仁義なき戦い』と東宝『日本沈没』の制作現場で活躍した人間たちを追いつ、斜陽期と言われる邦画の時代をどのようにして生き残ったのかを検証した力作です。

春日さんは、時代劇を中心とした邦画やテレビドラマを研究しており、著書に『京都太秦の職人たち』(集英社新書)、『天才 勝新太郎』(文春新書)などがあります。

■新ラジオパーソナリティ誕生!

昨年、開局 60 周年を迎えた TBS

ラジオが放送した記念番組「ラジオ東京スピリッツ」で行ったパーソナリティ公募企画から、卒業生の川村亜未さん（平成11年度卒）が、777名の応募者の中から選ばれました。

審査の様子は番組で順次取り上げられ、フリートークや自己紹介などの審査作品はHPに公開され、年末に行われた最終審査ではリスナーからの投票も行われました。プロデューサー、ディレクターからも高い評価を集め、見事選出された川村さんは、この春から、毎月1回、日曜日の深夜1時から放送の『午前1時のシンデレラ』を担当しています。

■「国際ドラマフェスティバル in EKODA」のご報告

1月21日、江古田E207教室にて「国際ドラマフェスティバル in EKODA」（主催／日本大学芸術学部、共催／国際ドラマフェスティバル in TOKYO 実行委員会）が開催されました。

第一部では、「ドラマの国際化に向けて～日・中・韓のドラマ制作体制」と題して、国際ドラマフェスティバル in TOKYO 実行委員会エグゼクティブプロデューサーの重村一さんにご講演いただきました。

第二部は、連続ドラマ優秀賞を受賞した『モテキ』（テレビ東京）の脚本と監督を手がけられた大根仁さんをお迎えして、ドラマ制作へのこだわりなどをうかがいました。

第三部は、連続ドラマグランプリを受賞した「フリーター、家を買う。」（フジテレビ）のプロデューサー・橋本芙美さんに、プロデューサーという仕事の実際をお話していただきました。

制作者たちの想いから日本のドラマの魅力を再発見していくことを目的とした本シンポジウムも、4回目の開催となりました。今回はテレビドラマ、放送業界での活躍を志す学生をはじめ、日ごろからドラマを楽しむ一般の方にも広く参加していただくことができました。

■第24回「ACC学生CMコンクール」の受賞報告

CMの質的向上と人材の育成を目的に、全国の学生を対象として実施されている本コンクールのラジオCM部門で、内藤早紀さん（3年）がキヤノンマーケティングジャパン(株)のサービス「PHOTOPRESSO」の60秒CM「絵本」で銀賞、清野拓也さん（3年）がサントリービジネスエクスパート(株)の商品「ペプシドライ」の20秒CM「オモシロドライ1」で銅賞をそれぞれ受賞した。

両作とも、(社)全日本シーエム放送連盟のHPで公開されています。(acc-cm.or.jp)

■菅原牧子先生が定年退職を迎えられました。

平成15年度より放送学科の専任教

員としてアナウンスの指導にご尽力いただいた菅原牧子先生が、この3月で定年退職を迎えられました。

TBS在職時はアナウンサーとしてご活躍され、大学ではその実績を生かし、アナウンス実習を中心に授業をご担当いただきました。ゼミナールでは朗読会を精力的に行い、多くのアナウンサー志望の学生たちを育てていただきました。

今年度からは放送学科の特任教授として卒業研究ゼミナールの「朗読発表」の指導にあたっていました。これからもどうぞよろしくお願いします。

■森田雅行さんが退職されました。

永年に亘り放送学科の技術員としてご尽力いただいた森田雅行さんが、平成23年度をもって退職されました。

音響や音声に関わる制作技術を中心に実習の中でご指導いただき、特にラジオ制作では、厳しい指導の下、多くの学生が制作技術や制作にあたっての考え方を身につけ、社会へと巣立っていきました。

授業以外でも、学生たちとフランクに会話をしてくれて、江古田の居酒屋で楽しく、時には真剣な談義に花を咲かせたことは良い思い出です。

森田さん、本当にお疲れ様でした。これからもますますお元気でいらしてください。

デザインブロック



■「徳島すぎ」を使って制作した学生作品の東屋「縁-enishi-」が吉野川市山川アメニティセンターに屋外展示

デザイン学科の深谷基弘教授の指導のもと、徳島県産の「徳島すぎ」の間伐材を利用して商品化に取り組む同県の林業団体と連携して学生が制作した東屋「縁-enishi-」が、徳島県吉野川市にある吉野川市山川アメニティセンターに屋外展示されました。同作品は建築デザインコースを平成23年度に卒業した市橋正崇さん

が設計。市橋さんとともに同コース卒業の中川照博さん・野々瀬さん、萩尾衛俊さん、4年生のジョンジへさんが実寸で制作したものです。今後は吉野川市民の憩いの場として常設される予定です。

■海外学術交流の一環でケルン工科大学のフィリップ・ハイトウカンブ氏の特別講義とデザイン学科の

細谷誠専任講師がケルンにてワークショップを開催

デザイン学科では積極的に海外学術交流を進めています。日本大学海外学術交流基金による平成23年度海外客員教授として、ドイツ/ケルン工科大学人文科学部インターナショナル・スクール・オブ・デザインのフィリップ・ハイトゥカンプ教授（専門はインターフェイスデザイン）を招聘し、平成23年10月24日から27日まで江古田校舎にてワークショップを実施しました。

続いて、デザイン学科の細谷誠専任講師（現准教授）が同年11月1日から12日までケルンに渡り、同校でインタラクティブデザインに関するワークショップを行ないました。

■インダストリアルデザイン研究室がデザインで協力した「わさび火災警報装置」の研究開発が「イグノーベル賞」を受賞

ユニークな研究を表彰することで知られるイグノーベル賞で、「わさび火災警報装置」の企画・研究開発を行った香りマーケティング協会理事長の田島幸信さんはじめ6名の日本人が受賞しましたが、同装置の開発において、平成20年度にインダストリアルデザイン(ID)研究室の肥田不二夫教授、清水敏成講師、土田修研究所教授がデザインを担当しました。

同装置は火災報知器と連動し火災発生時に五感の一つである嗅覚を刺激して火災を知らせるもので、ID研究室としてはユニバーサルデザイン研究の一環としてデザイン開発で協力しました。防災意識が高まる中、同装置は高齢福祉施設などに設置されはじめています。

■銀座・和光のウィンドウディスプレイをデザイン学科生がデザイン

銀座通りの和光本館のショーウィンドウに、デザイン学科4年生の生

沼祐亮さん、後藤浩美さん、秋田諒さんがデザインした『Sweet Trap』がバレンタインデーのディスプレイとして採用され、平成24年2月1日から14日まで同ウィンドウに展示されました。

■「平成23年度日本大学芸術学部デザイン学科卒業制作選抜展・大学院造形芸術選考修了展」を開催

恒例となっている卒業制作選抜展が平成24年2月19日から3月1日まで江古田校舎にて開催され、学部や大学院で取り組んだ研究の集大成として制作された作品が展覧されました。また、同展覧会のオープニングにあわせ、2月19日にはデザイン学科と旧美術学科のデザインコースを卒業したOB・OGの皆さんと学生との交流会が同会場で盛大に開催されました。デザイン学科全体としてこのような交流会を開催するのは初めての試みでしたが、多数の校友にお集まりいただき、作品や進路などについての意見交換や情報交流が活発に行われました。今後も卒業制作展の恒例企画として、この交流会を開催して参りますので、どうぞご期待ください。



■第6回日藝賞にロボットデザイナーの松井龍哉さんが選ばれました

旧美術学科ビジュアルコミュニケーションデザインコースを平成3年に卒業したフラワーロボティクス(株)代表取締役の松井龍哉さんが日藝賞を受賞しました。デザイン学科としては初の受賞となります。

松井さんはヒューマノイドロボットの「SIG」や「PINO」、「POSY」をはじめ、マネキン型ロボット「Palette」などを相次いで発表。また、航空会社スターフライヤーのトータルデザイン、ダンヒル銀座本店店舗設計、KDDI「iida」のコンセプトモデル「Polaris」のデザイン開発などの実績もあります。MoMA、ベネチアビエンナーレなどにも多数出展したり、iFデザイン賞、グッドデザイン賞などの受賞歴も多数あり、今世界的にも注目を集めているデザイナーの一人です。

■「博物画に情熱を注いだ画家 杉浦千里の原画展」開催のご案内

ウルトラマンや怪獣たちを愛し、博物画をライフワークとしていたひとりの天才画家、杉浦千里が亡くなって11年。デビュー作のウルトラマンUSAからウルトラマンゼアス、ウルトラマンシャドー、ウルトラマンコスモス、そして怪獣など、生前彼が描いた貴重な原画を集めた展覧会が下記の日程で開催されます。直感にはたらきかけるイラストレーションの密度とパワーから、作者の見る者への愛にみち溢れたメッセージが伝わってきます。杉浦千里の神業とも言える仕事をご堪能ください。

会期：平成24年4月6日（金）

～5月11日（金）

時間：10：00～20：00

（最終日のみ17：00まで）

会場：日本大学芸術学部江古田校舎
A&Dギャラリー（入館無料）

主催：日本大学芸術学部デザイン学科
協力：杉浦千里の作品保存会、

株式会社円谷プロダクション

再度、探しています！

日本大学芸術学部校友会からのお願いです

昨年の芸術祭では、校友のみなさまにご協力をいただき、ありがとうございました。

大変好評につき、引き続き今年も展示を計画しています。

つきましては、昨年同様みなさま方からの思い出の写真や印刷物をお待ちしています。

取りわけ、美術学科、音楽学科、文芸学科の校友のみなさまからのご協力のほどを、よろしく願っています。

現在の新校舎以前の江古田旧校舎（概ね 昭和55年・1980年 以前の写真）や、
大・中・小講堂、学食棟・教職員棟などが写ったものや、文化部・運動部・同好会での活動中の写真を探しております。

また、その当時のキャンパスを想起させる印刷物や出版物も歓迎致します。

※特に写真の場合は、個人の記念写真とか集合写真よりは、背景に「校舎」あるいは
「教室」や「部室」などが視認できるものを希望します。

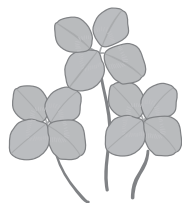
なにとぞ趣旨をご理解の上、ご協力 ご配慮くださいますよう 重ねてお願い致します。

■応募締切：平成24年（2012年）6月30日まで

応募方法：①住所②氏名③電話番号④卒業年度⑤卒業学科⑥写真添付点数を明記の上、下記日本大学芸術学部校友会室宛までご郵送下さい。

〒176-8525 東京都練馬区旭丘2-42-1 日本大学芸術学部校友会事務局 行

※尚 ご郵送いただいた写真や資料については、後日返送致します。また、のちに これらをまとめて上梓する予定もございますので、あらかじめ お含みおください。



総会のご案内

(株)スタジオ・マイ ▶ 1973年設立。ビジュアルから立体に至る、デザイン全般を受け持つ。

(株)スピーチ・バルーン ▶ 1985年、スタジオ・マイの出版部門として発足。絵本、コミック、アニメ他、企画本の制作、出版プロデュースを主とし、グループ5社の進行管理を担う。また、各種イベントの企画・構成・プロデュースなども行っている。

(株)スタジオ・マイ ☎03-5999-8611

(株)スピーチ・バルーン ☎03-5999-6911

design：スタジオ・マイ

編 集 後 記

昨年度、震災により中止された「卒業生を送る会」が、平成23年度は無事開催することができました。今年は学生DJとVJが操る音楽と映像、そして演劇学科日舞洋舞コースのダンスによりオープニングとエンディングが飾られ、校友会からも花火の演出を贈らせていただきました。ご卒業おめでとうございます。（青木）

8つのアート1つのハート

N O U
Nihon University College of Art

A r t

日本大学芸術学部校友会報・第88号

2012年春号 ● 平成24年5月発行 ●

- 編集人 会報編集委員会
- 発行人 綾部東洋子
- 広報担当 西垣仁美 福島唯史 設楽俊
今泉久 青木敬士 小林直弥
茅原良平 片岡義和 長瀬浩明

●発行所 日本大学芸術学部校友会
東京都練馬区旭丘 2-42-1
日本大学芸術学部内
電話 (03) 3554-5363
事務担当 北島 留美子

●印刷所 江戸クリエート株式会社
東京都文京区本郷 3-40-10
三翔ビル本郷
電話 03-3814-1225

非売品

不許可転載

●表紙
平成23年度写真学科卒業制作
安達洋子
「RECUEIL-garder/liberté-」